



動物と出会い 人と触れ合って 心のときめきをコーディネートするために — ZOO VOLUNTEER

円山動物園
ボランティア会

ふれあい・コンタクト

ニュースレター第57号 2013(平成25)年8月10日発行 発行責任者:佐藤國男(代表世話役)
円山動物園ボランティア会 / 〒064-0959 札幌市中央区宮ヶ丘3 札幌市円山動物園経営管理課気付 TEL(011)621-1426

まるっぱ広場は大賑わい

春4月からチビッコの広場「まるっぱ」がオープンしました。

動物園西門から入って左側の広いスペースに設置され、連日チビちゃんたちの歓声で賑わっています。「まるっぱ」とはMaruyama Zoo Kids Parkの頭文字の愛称ですが、単なる遊び場でなく様々な動物の大きさや習性を遊具で遊びながら体験できるように工夫されています。ジャングルコンビネーション、プレーリードッグの巣穴等、数々の施設が配置され、園内の動物になりきって楽しく遊べる遊具が揃っています。昨年から大学の関係者や市民のアンケートなどを取り入れ検討を重ねて出来上がった楽しい施設で、期待以上に大にぎわいです。



チビッコたちがこの施設で遊び、動物大好きで優しい人間に育ってゆくことが期待されます。

七夕飾り

今年も7月7日(日)に七夕飾りをして来園者の夢を短冊に書いてもらいました。

動物園に関するものは減り、女の子はパティシエ、男の子はスポーツ選手がそれぞれ一番でした。



動物園巡り

東山動物園は広い

5月中旬、気温11℃の札幌を出発して、着いた名古屋は32℃。暑い。さっそく東山動物園へ、広い自然の森の中に池を挟んで動物園エリアと植物園エリアに別れ、両方をつなぐスカイビュートレイン（モノレール）があります。

入ってすぐ子ゾウのいるアジア舎へ、自由に動き回る子ゾウに心配そうに後を追う母ゾウ、きっと子育て上手なお母さんでしょうね。

園内の通路にアジアゾウが『えっ！』囲いが無いと思ったら等身大のレプリカでした。子供たちが象の足の間で遊んでいます。

クマ舎ではヒグマがこの暑さにギブアップ？ プールの中に長くのびてまるで毛皮のジュータンみたい。

ゴリラ舎では、去年11月「ネネ」（推定41才）が高齢でオスの赤ちゃん「キヨマサ」を産み、父「シャバーニ」と姉「アイ」と一緒に生活しています。初めは決して触らせなかったそうですが、今では父「シャバーニ」が心配そうに赤ちゃんの側を離れずに付いていて、育メンパパぶりが何ともほほえましく見えました。

とても広い園内、すべての動物を見られず心残りでしたが次回を楽しみに園を後にしました。

(やせい班 中島香代子)

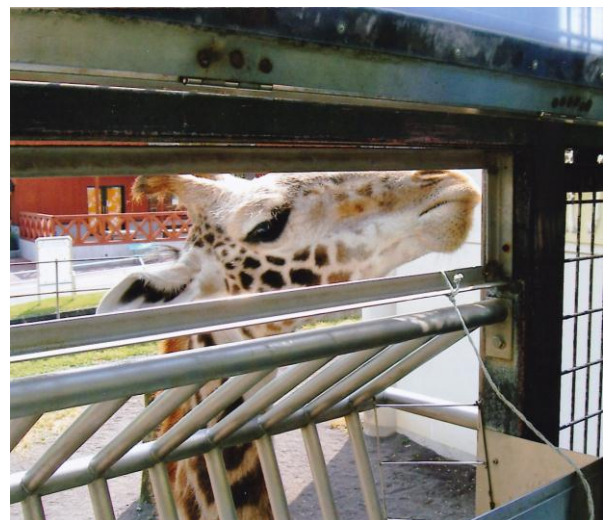
ナナスケに再会

5月14日、静岡市の日本平動物園でキリンの「ナナスケ」に再会してきました。

昨年の10月、1才3ヶ月で繁殖のために移り、お相手の「リン」は12才、姉さん女房で3回出産し背の高いうりっぱなお母さんキリンです。毎日午後2時30分から『キリンに葉っぱのプレゼント』があり、その日は暑い日でしたが、人気のふれあいイベントだそうで、親子連れのお客様が行列を作り嬉々として「ナナスケ」にシナの葉っぱを与えていました。葉っぱを与える所は、傾斜地を利用した「ナナスケ」の顔の高さにあり、大きな目、長いまつげ、長い舌で木の葉っぱをからめ、上手に口に取り込む様子がよく見て取れました。笑顔の素敵な飼育員さんに『円山動物園のガイドボランティアでナナスケに会いに来ました』とお伝えすると『札幌からわざわざ・・・円山動物園でも可愛がられていたのでしょうか。ここに来た当時はお相手のリンにぴったりとくっついて離れなかった』と話して下さいました。きっとお母さんが恋しくてたまらなかったのでしょう。

いつになるか、「ナナスケ」の子が出来たら会いに行きたいです。

(やせい班 藤田叶子)

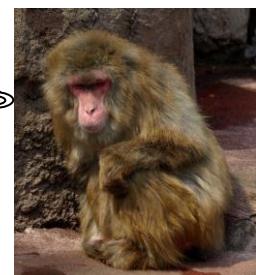


バックヤードにいます
ウルスラ

最近はみんなに会えないけど、
57年もたったなあ・・・

わしゃ、まだまだ元気
じゃ！！

はな子



キーパーさん紹介 菅原獣医師訪問記

今年は2年目です。

今回、インタビューしたのは、獣医師の菅原里沙さん。待ち合わせの子ども動物園に現れたのは、高校生かと思われるような可愛い女性でした。それもそのはず大学卒業2年目「大学では牛、馬、豚、鶏、犬、猫の勉強はしましたが、動物園にいるような野生の動物に関しては何も知らないの、爬虫類に関しては注射ひとつ打つにしても新鮮なことばかりでした。作業は先輩獣医とともに園内各所を回っていますが、今行われているキリンのターゲットトレーニングにも積極的に参加したいです」と意欲的。作業を通しての一体感を大事にしたい！と云う彼女の制服は膝のあたりが擦り切れそうでした。

学生時代のバイトが役に立っています。

担当はモルモット。毎回人気のモルモットのふれあい教室。6月の羊の毛刈りの際にはマイクを持って的確な解説をしていました。ポイントを掴んで聞く人の心を離さない話術。子どもとの距離感も抜群です。

今、休みの日は弓道をしています。高校時代にやっていた水泳も再開。聞けば、東北大会にも出場した経験があり。本人は「適当なんです。」と謙遜していましたが、できる、できない、ココはしなくてはいけない等が自分の中で分けられているようです。

菅原さんは岩手県出身。中学3年の修学旅行で円山動物園を訪ね、「ここで、働きたい！」と強く思ったそうです。理由を聞いて見ても、言葉で表せない『一目ぼれ』札幌市職員に合格し、念願の動物園に採用され、運の強さを感じているとか・・・携帯を取り出して見せてくれた写真には、セーラー服姿の女の子4人とキリンの『タカヨ』でした。

仕事で一番うれしかったことは？の質問に迷わず「キリンの削蹄をさせてもらったこと」と夢が実現した笑顔。そして『今、心配なのはアフリカゾーンへの動物たちの移動です』と今度は職員の引き締まった顔。

進路を考え始めている中学生を一瞬で惹きつけてしまった円山動物園の凄さを改めて知らされました。

目標は、キーパーさんに信頼される獣医です。

「呼ばれたらすぐに行くようにしています！」と、動物だけでなく人の結びつきや一体感を大事にしている菅原さん。本人分析では、性格は猫？ダラダラしているのはナマケモノ？に近いらしい。『適切にと云う意味合いでの「適当」で、頑張り過ぎないように頑張ります』とキリッと答えてくれました。そんな若さ溢れつ素直な言葉に大切なことを思い出させてもらいました。お忙しい中インタビューに応じていただきありがとうございます。



次号までの行事予定

行事名	日程	場所
わくわく蟲ランド	8月1日(木)～8月25日(日)	科学館ホール
夜の動物園	8月中毎土曜日と8月15日(木)8月16日(金)	園内各所
ホッキョクグマ命名式	8月18日(日)	世界の熊館
ボランティアの日	9月8日(日)	園内各所
幼児・児童動物画コンクール作品募集	8月19日(月)まで	
円山スネークアート展	9月13日(金)～9月23日(月)	科学館ホール

頑張ろう！！ミニツアーガイド

ミニツアーガイドを始めて早、1年3ヶ月が過ぎました。その間、ガイドの時間帯やPRの方法など試行錯誤を重ねてきました。まだまだお客様の参加人数が少ないのが現状ですが、“継続は力なり”と言います。これからも4班が力を合わせてやって行きましょう。

ここ1～2年、天候のせいもありますが、年間の来園者数が増えていません。獣舎の施設も新しく充実してきましたし、人気のある動物の新しい生命の誕生もあります。そこで来園者数を増やすためには、ミニツアーガイドが欠かせない重要な活動になると思います。動物園側もマスコミを通じて、活動を積極的に紹介したいと言っています。力強い後押しもあり、私たちもガイドとしての心と技を磨き続けましょう。

いつの日かミニツアーガイドが、動物園にとって無くてはならない存在として、成長していくことを願っています。
(クマチカ班 竹尾昌巳)

「ナナコ」「ユウマ」のターゲットトレーニング

最近キリンの飼育場で棒を使い、飼育員さんがトレーニングを行っています。先日、アニマルファミリー宛に届いた飼育員さんからのメッセージにそのことが書かれていました。飼育員さんは秋田の大森山動物園にターゲットトレーニングを学びに行ってきたそうです。

秋田のアミメキリンは、トレーニング中でもリラックスしていて、鼻息を感じられほど間近でトレーニングを見ることが出来たそうです。ラマが園内を歩く練習をしていたり、アフリカゾウが足を台の上に置き採血させる様子も見られたとのことでした。

『胸に触れるようになってから、足に触るように』といわれ「ナナコ」はターゲット棒の先に口を持って行くようになり、今では首にまで触れるようになったとのこと。同時に始めた「ユウマ」は『ナーンダヨ、ソレ』と言う目で動かなくなってしまうことがほとんどだそうです。

『ターゲットトレーニング』

動物に対して柵越しに指示を出し、棒や手（ターゲット）に身体の一部に触れたら、決まった音を鳴らしてご褒美を与え、指示どおりに動けるようにするトレーニングです。このトレーニングにより、飼育係と接することに慣れ、体の状態を間近で観察したり、麻酔なしで簡単な治療が出来るようにするのが目的であり、トレーニング自体が動物にとって「楽しい遊び」なので、ストレス軽減につながります。また柵越しですから飼育員さんの安全にもつながります。

(ワイルド班 水戸久仁子)



ガラスの厚さ

先日、小学生からの質問がありました。

アジアゾーン

	厚さ	材質
アロワナ・カウソ・トラ ユキヒョウ・マレーグマ	15 mm+15 mm	強化合わせガラス
ヒマラヤグマ	12 mm+12 mm	強化合わせガラス
サル類	10 mm+10 mm	強化合わせガラス

エゾヒグマ館

	厚さ	材質
冬眠穴と奥にある見学用窓	75 mm	アクリル板
正面プールの大きな窓	50 mm	アクリル板

海獣舎ののぞき窓、チンパンジー館の屋内展示場、屋外の蟻塚の前の窓、サル山レストハウスの窓。熱帯動物館内ネコ科動物展示施設。こども動物園リスザルドームなど園内にはガラス越しに見学できる場所がたくさんあります。